

医師の日常業務について

皆さまに当院の医師についてより一層のご理解をいただくため、各医師の日常業務をシリーズで紹介してまいります。

高島 均 先生（放射線治療科）の一週間

放射線治療とは、悪性腫瘍（がん）に対して放射線を照射し治療することです。悪性腫瘍には抗がん剤と放射線治療を組み合わせることが多いです。当院では高精度放射線治療が可能なトモセラピー（強度変調放射線治療、画像誘導放射線治療）を使い、根治から緩和治療まで幅広く行っています。

月曜・火曜（初診）・水曜には外来診療を行っています。他の科を受診している患者さんも多く、同日に放射線治療科の診察予約を入れ経過観察を行っています。

外来診療後の月曜から木曜の夕方は治療計画のための CT や MRI を実施します。患者さんの年齢や全身状態などを考慮し、コンピュータ上で治療計画を立てます。その後、放射線技師や医学物理士が放射線の線量を検証します。線量計で放射線量を実測し、フィルムで放射線の分布（当たり方）を三方向から確認



します。誤差が 3 パーセント以内なら治療を開始します。この結果が出るまでに 3~4 日かかりますが、放射線を使う以上必要不可欠な作業ですので、できるだけ早く正確に行います。

病棟業務としては、朝と夕方に入院患者さんの状態を確認します。他科で入院している患者さんや、他院から放射線治療目的で入院している患者さんもいます。例えば前立腺がんの患者さんは泌尿器科の医師と連携しながら診察します。

放射線治療では、切らずに治す根治治療から苦痛を取り除く緩和治療まで、様々な治療法を組み合わせながら行っています。気になることがあれば、ご相談ください。

山下 泰司 先生（整形外科）の一週間

骨折を中心とした外傷全般の治療を行っています。月曜・水曜は手術、火曜・木曜・金曜は終日外来診療を行っています。火曜と木曜の午後は予約制となっておりますが、お困りの方がいらっしゃると放っておけない性分なので、救急や他院からの紹介患者の対応も行っています。このため、ご予約の患者さんの診療待ち時間が長くなることもあります。申し訳ありませんが、ご協力をお願いいたします。

外来では、ひざの痛みや腰痛を訴える患者さんが多く、重たい荷物を運ぶ際の無理な動作が原因となっていることが多いです。痛みが良くなっても無理をしないよう心がけましょう。また、ばね指（手の指の腱鞘炎）の患者さんも多く見られます。ばね指は、指の腱が炎症を起こし、動きが悪くなる状態です。症状が進行すると、指が曲がったまま戻らなくなることもあります。ばね指の治療は、症状に応じて、安静、薬物療法、ステロイド注射、手術などがあります。早期発見と治療が重要ですので、指に異常を感じたら早めに受診してください。

さらに整形外科では、お怪我をされた方が多くいらっしゃいます。骨折などがあればすぐにレントゲンを撮って整復したり、ギプスを巻いたりするなど、さまざまな外傷の処置を行っています。一人一人への処置に時間がかかり、混雑して待ち時間が発生することがありますが、ご理解ください。

私たちは、患者さん一人一人に対して丁寧な診療を心がけています。上肢、特に手の痛みや変形、しびれ、腫脹（はれ）、腫瘍（できもの）で困ることがあれば、ぜひ外来でご相談ください。どんな小さなことでも構いません。患者さんの健康と生活の質を向上のため、全力を尽くしています。



野村 圭 先生（内科）の一週間

内科のなかでも、胆のう・膵臓を中心に消化器全般を診察しています。月曜の午前はエコー検査、午後は予約制の外来診療、火曜は病棟業務と大腸内視鏡・超音波内視鏡（EUS）を行っています。水曜・木曜の午前は外来診療を行い、木曜の午後は救急患者の対応をしています。金曜は上部内視鏡と大腸内視鏡・超音波内視鏡（EUS）を実施し、また、内視鏡的逆行性胆管・膵管造影（ERCP）関連の処置も行います。消化器内科、特に胆のう・膵臓の受診時期はわかりにくいかもしれません。消化器症状（腹痛・吐き気・食欲不振など）が続いたり、健診や過去の検査で胆のうや膵臓に異常を指摘されたりした場合は、消化器内科の受診を検討してください。テレビで「背中が痛かったら膵臓の病気かもしれない」と報道されることがありますが、腰や背中の痛みが必ずしも膵臓が原因とは限りません。腎臓疾患や整形疾患が原因の場合もあります。消化器症状に加えて痛みがある場合は、消化器内科に相談してください。

消化器症状は様々で、吐き気や腹痛などの原因は検査しないとわからないことが多いです。感染症が重なると重篤化する可能性もあります。内視鏡検査は一般的にしんどいというイメージがありますが、内視鏡でしか分からないことも多くあります。早期発見のためにも内視鏡検査を定期的に受けることをおすすめします。



阪部 雅章 先生（外科）の一週間

専門は胃・大腸を中心とした消化器外科ですが、傷の処置や脱腸・乳腺など一般外科領域を含め診療を担当しています。朝と夕方、必ず外科の医師で病棟を回診し、入院患者さんの状態を確認しています。手術で時間が遅くなっても回診は必ず行います。回診前に血液検査の結果を確認し、その結果や回診時に気になった点を考慮して追加の検査を決めます。

火曜・木曜・金曜の午前は外来診療を担当し、日にもよりますが20人程度の患者さんを診察します。多くは手術後の定期診察で、がん手術後の患者には抗がん剤治療も行います。切り傷や擦り傷の処置、脱腸（そけいヘルニア）や痔の診察もします。

水曜午前は救急担当として救急車の受け入れ対応を行い、外科系疾患全般を担当します。骨折や脳血管疾患の患者もおり、受け入れ後に検査し、病状に応じて専門科へ相談します。当院を定期的受診するかかりつけの方は必ず受け入れるよう心がけています。



月曜・火曜・水曜・金曜の午後は手術を行うことが多いです。胃や大腸・乳がんの手術、そけいヘルニア、盲腸（虫垂炎）、胆石の手術が多く、腹腔鏡手術で行っています。

土日や祝日も入院患者さんがいるので、交代で診察と回診を行います。休みの午後は病院を離れ、ドライブやスポーツ観戦など余暇を楽しむ時間も確保しています。

患者さんにとって一番大事なことを考え、負担の少ない最良の治療を提供できるよう努めています。院内で一番身体が大きな医師を見かけたら、おそらくそれは私なので、気軽に声をかけてくださいね。